

IMF・世界銀行年次総会 CSO 連絡会 第2期第5回全体会 議事録

日時：2012年12月13日（木）17:00-18:00

場所：JANIC事務所 6F スカイラウンジ
(東京都新宿区西早稲田2-3-18 アバコビル)

【議題】

1. 開会
2. 議長選出
3. 議事録署名人の選出
4. 議題
 - 4-1. 活動総括について
 - 4-2. 第2期決算（案）について
5. その他

【配布資料】

- ・参加者一覧
- ・活動総括（案）
- ・第2期決算書（案）

【回覧資料】

- ・報道採録

【決定事項】

- ・本日の議論をもとに活動総括案を修正する。
- ・第2期の会期末である12月31日をもって会計を締め切った後、幹事2名が会計監査を行う。

【議事録】

1. 開会

2. 議長選出

事務局からの推薦により、山田太雲さん（オックスファム・ジャパン）が選出された

3. 議事録署名人の選出

大橋正明さん（JANIC）、稻場雅紀さん（動く→動かす）が立候補。

4. 議題

4-1. 活動総括について

堀内（JANIC）：

9月の第4回幹事会にて承認された内容をもとに構成した。連続セミナーの実施回数、内容、Ustream配信の現在までの視聴回数、同時通訳の導入への提言効果について、報告書に明記した。

<総括に関する質疑応答>

谷山（JVC）：

広報部分について、財務省とは事前に面会をしてウェブサイトにリンクを貼ることや、同時通訳の導入を申し入れた事実を盛り込んでおくほうがよい。また、連続セミナーのタイトルと時期についてはすべて記載するほうがよい。「市民社会プログラムにアクレディテーションを取得して参加する CSO が自律的に決定できる」という記載のほうが望ましい。

大橋：

CSO 連絡会のそもそも位置づけが明確にならなかった。ホスト CSO なのか、ホスト国 CSO なのかどうか、など。全体として結局どうだったのかわからない。

片山（ワールド・ビジョン・ジャパン）：

IMF・世界銀行主催の会議であるため、参加する CSO はお手伝いをする、という構図は明確ではないのか。

白須（日本リザルツ）：

そうであっても、一部には IMF・世界銀行とセミナーを共催する CSO もあり、時間や場所を優先的に決めていたセッションもあったはず。CSO で調整できる状況ではなかった。この件は先方に明確に確認すべきであった。

山田：

了解事項としては前回からも明確だったのではないか。IMF 世銀が主催の会であり、市民社会の側がプログラムをコントロールする権限は付与されていなかったのではないか。そのうえで、そのやり方では今回のような問題があることが日本の経験としてわかったので、市民社会の主催とするなど、異なるモダリティが必要である旨、提案すればよいのではないか。

稲場：

市民社会プログラムの主催が IMF・世界銀行でも構わないが、市民社会がどこまで何をできて、できないのか、ということを確認すべきではないか。毎度異なる国での開催のため、私たちが今回得た教訓を次回開催国のペルーの市民社会に引き継げるのかどうかが重要。現実の力関係で決まってしまう問題があるので。

片山：

日本開催の総括として、市民社会プログラムとしては、IMF・世界銀行と市民社会が共催したほうが円滑にいく、という提言をすればどうか。

大橋：

ホスト国 CSO が共催する、という言い方が現実的ではないか。重要なのは、私たち市民社会が何がわからなくて困ったのか、ということを明示しておくこと。

鶴見：

総括としては、活動したことだけではなく、やりきれずに残ったことについても記載すべき。また、スポンサー CSO との連携がほとんどなかつたことは大変残念である。

山田：

以上の議論を踏まえ、「市民社会プログラムはホスト国 CSO との共催が望ましい。また、CSO にはある程度の自律性を認めるべき」との表現に修正する。

村上（高木仁三郎市民科学基金）：

開催趣旨については IMF・世界銀行や他市民セクターとの対話を目指したものだったが、実際に CSO の参加者が大半であり、チラシを配ることも許されなかった。そのような状況では、果たして市民社会プログラムの本来の目的にあっているのだろうか。海外から来られている人もいる

のに、少人数のCSOだけのイベントで我々が満足できるのかどうか。近いテーマのセッションを近くの場所で開催するなど、もう少し全体の構成を工夫するなり、CSOの視点が入ってもよかつたのではないか。

白須：

市民社会プログラムにはIMF・世界銀行の関係者があまり参加していなかったのは残念。IMF世銀の人にもどんなセッションをやっているのかを知りたいし、そもそも参加してもらう仕組みをつくることも提言すべき。

山田：

スポンサーCSOが「囲われている」ことや、市民社会プログラムでのセミナーはえてしてCSO同士の対話に終始していること、また一部セミナーはこれをアドボカシー機会とするためにIMFや世銀官僚を巻き込んだものにしていることなどは、この連絡会の中でも2011年年次総会や2012年春季総会の報告で共有しており、2012年年次総会に参加してみて初めて判明した、という問題ではないことは、確認しておきたい。また、これまで議論してきた「ホスト国市民社会への提言」は、3年間6回のうち5回の総会が開催されるワシントンの市民社会にも同様の提言をするという理解か。

大橋：

ワシントン以外で行う場合のみの提言でよいのではないか。

鶴見：

CSOの自律性については、IMF・世界銀行の東京事務所だけでなくワシントンに伝えていかなければならない。

稻場：

総括に加えて、「提言」という章を設けて明確にすべき。

大橋：

その上で、次回の開催国であるペルーの市民社会や、来年の北東アジアCSO会合でも伝えるべき。

鶴見：

市民社会プログラムのうち、CSO連絡会が主催したセミナーも掲載すべき。

4.2. 第2期決算（案）について

片山：

第2期の会期末である12月31日をもって会計を締め切った後、会計監査を行う。監事2名で確認をし、修正報告を会員に回覧する。最終調整役は本日の議長と事務局にお願いする。

5. その他

特になし。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名人は以下の通り署名する。

議長 山田 太雲 (山田 太雲) 
議事録署名人 稻場 雅紀 (稻場 雅紀) 
議事録署名人 大橋 正明 (大橋 正明) 

以上